

2023年9月

No. 69

書道教室 薬院 一凛  
sho-do ICHIRIN

継続は力なり



月刊  
一凛



夢は美し〜がよい

希望は高きがよい

夢も希望も捨てなければ

必ず近づいてくる

目的は高きがよいそのための

一里塚として目標を定めよう

〜々そのために時を

刻まがよい



月刊一凛 No.69 (2023年9月)

《競書審査員》佐々木峯雲

《発行》書道教室 一凛 薬院

《制作》野口昌芳(NS)



書道教室 薬院 一凛  
sho-do ICHIRIN

〒810-0022 福岡市中央区薬院3-7-25 原ビル2F  
TEL / 092-791-7251 FAX / 092-791-7786  
<https://www.shodo-ichirin.com/>

# 西日本新聞 書道之友展2023 結果報告

今回、西日本新聞書道之友展2023に六名の方全員が入選し、8月15日から20日まで福岡市美術館にて作品が展示されました。

皆さんは出品2か月前より、自身に勝つ強い意思を持ち続け、弛まぬ努力を続けた結果、素晴らしい作品に仕上り入選することが出来たのだと思います。六名の皆さんのご努力を心より讃えたいと思います。

も多くの方が、「やれば出来る！」の勇気ある意志をもって挑戦されることを心より願っています。

佐々木 峯雲

## 福岡市長賞

月曜日Cクラス  
小田 明子さん

3年ぶりに挑戦した西日本新聞書道之友展。作品完成までの約2ヶ月間を振り返ってみました。

目標高くというならば、2019年に受賞した福岡市長賞よりいい賞を。ではありますが、まずは期限までに作品を仕上げなくては話になりません。最初の1ヶ月は練習期間。練習方法は言うまでもなく書くしかありません。書いて添削の繰り返しでした。

残りの1ヶ月は出品作品として仕上げる期間。1枚仕上げるのに約1時間半。集中力との戦いでした。書き終えたひと息ついて最後の仕上げは、線引きです。半紙の課題でもたまにある赤ペンで引くアレです。違ったところはないと、青ペンで半紙の数倍の長さの線を引くという点。先生から「ダマにならないように」「線を引くごとに定規とペン先を拭き取りながら」との注意を受け、いざ。出品候補2枚があったから良かったものの予備候補を失敗するというハプニングから始まり、失敗できない緊張感を抱えながら線を引き終え提出にたどり着きました。

6月半ばに届いた結果通知で、福岡市長賞の受賞を知りました。よりいい賞をという目標は達成できませんでしたが、2019年の作品よりも柔らかい線が表現できていて、満足のいく作品が完成したと思います。これを励みに普段の半紙課題も条幅課題も頑張りたいと思います。



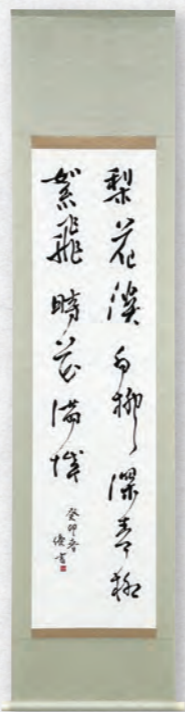
## 特選

火曜日Cクラス  
友岡 優さん

毎月の課題にプラスして、2ヶ月に一度の条幅課題への取り組みは、いつも時間とやる気との勝負で、たまに投げ出したくなるのですが、この度の結果は今後の励みになりそうです。

実は、春に書いたものと、夏に作品展に向けて制作したものの2点を出品したところ、

春の書の方が入賞してもう一方は落選したので、少し複雑な気持ちです。過去の自分に負けないように、日々精進ですね！



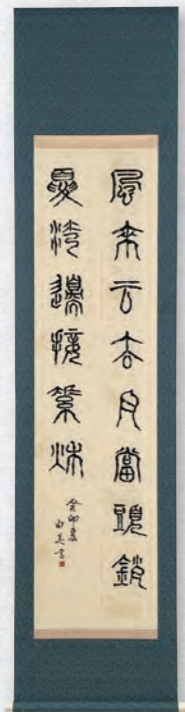
## 特選

金曜日Aクラス  
光山 由美さん

今回の出品にあたり篆書を希望したものの、お手本を頂きざ練習を開始してみると、1枚に2時間程度を要し集中力、体力の維持が難しく本当に出品できるのかと不安になりました。

出品できる事が出来たのは毎週先生に添削指導して頂き励まして頂いたおかげ

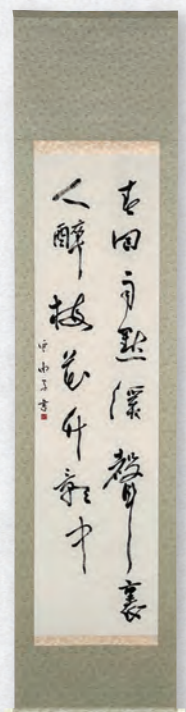
です。また、添削時に改めて色々な事を学べたことは本当に良い経験になりました。この経験を今後生かしていきたいと思ひます。



## 特選

土曜日Bクラス  
石川 あゆ子さん

2ヶ月間集中して作品を作り上げるいい経験ができました。手本どおりに書けなかったり、もう少し作品映えるよう、紙の色柄を考えればよかったなど、反省点はたくさんありますが、月々の課題や次の機会に活かしていきたいと思っています。



## 奨励賞

木曜日Bクラス  
井島 麻美子さん

教室に通って10年。以前から条幅に挑戦したいと思っていたながら、仕事や育児にかまけて始められずにいました。

書道展への出展を目標に昨年からは練習を始めましたが、文字数の多さと半日がかかる作業に途方に暮れる日々。上達しているのかも分からず不安

もありましたが、先生からの添削や励ましのお言葉を頂き何とか出品する事ができました。

この年齢(40代)になってもやり遂げる達成感や、やり甲斐を感じる書に出会えた事に感謝しています。ご指導ありがとうございます。



## 奨励賞

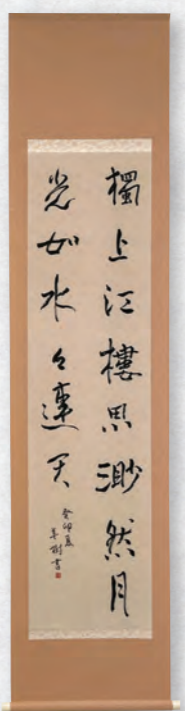
FREEクラス  
荒木 美樹さん

日々の半紙での練習の積み重ねで自分がどこまで変化できているか知りたく、今回書道之友展への出品をしました。

約二十年ぶりに半切の作品制作に向き合い、このような出品も久しぶりのことです。

大きな作品を書くことは兼ねてより好きなことなので楽しく、出来ないことが出来るようになることは単純に嬉しく、この作品に対し、より深くまで入り込むことができて幸せでした。

そしてこの作品を作ることが出来たのは先生のご指導のお陰だと思ひ、心から感謝しています。勿論、上の賞が良かったという気持ちもありますが、心ゆくまで練習してこれで十分という気持ちまで深めての出品だったので、素直に今の自分の技量を認め、来年も出品できるように今後も地道にコツコツと励んで参ります。



# 条幅漢字

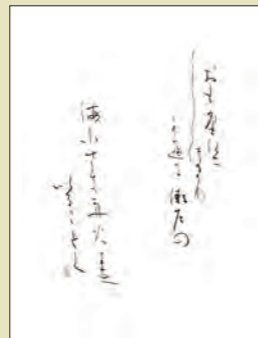
準教授対象 制作作品

## 9月分課題

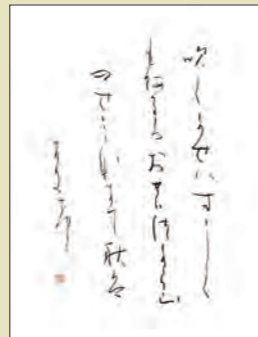
9月分課題は10月10日(火)が提出期限予定です。  
諦めることなく、コツコツと努力することが何より大切です。  
みなさん、今月も頑張りましょう。

硬筆                      かな                      漢字

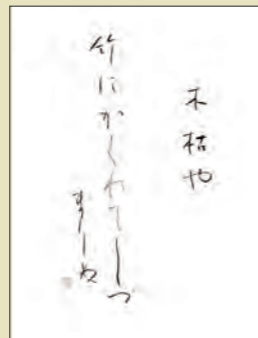
おもだけに静まりかへる瀬戸の海  
小さき舟火消え入ることく  
《源実朝》  
吹く風の涼しくもあるかおのづから  
山の蝉鳴きて秋は来にけり  
《源実朝》  
木枯や竹に隠れてしづりぬ  
《松尾芭蕉》



六段以上



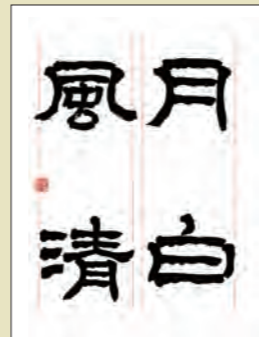
初段～五段



10級～1級



六段以上(隸書)



初段～五段(隸書)



10級～1級(楷書)

- 配布された手本に間違えないか、上記課題一覧を必ず確認してください。
- 硬筆の添削に関して  
初段以上の方の添削は毎月1回限りとします。  
十分練習を重ねて仕上げた作品を添削依頼してください。

今月の硬筆課題は初段以上も楷書につき  
**六段以上の方の添削は不要**です。

何気ない日常の、何気ないやりとり。

さふらふ 16

拝啓、早秋の候

このやりとりをしている8月上旬も暑い日が続いていますね。

今では日本の暑さは蒸し暑さよりも猛暑による日差しの強さの方が上回っている気がします。先生はこの異常な気温上昇についてどう思われていますか？

7月の欧州、スペインやイタリアなどで37度以上の熱波に見舞われ、ギリシャの世界遺産の「アテネのアクropolis」が猛暑で立ち入り禁止に。日本でも各所で連日35度の猛暑に見舞われ、久留米や秋田では記録的な大雨により甚大な被害を受けました。

欧州連合(EU)の気象情報機関が、7月の世界平均気温が16.95度となり、1940年からの観測史上、月平均で最高になったと発表されました。きっと、「暑い、暑い、暑い」と地球が怒っているのでしょう。

8月には沖縄を二度襲った瞑想台風6号、お盆の時期に関西方面を直撃し、帰省に大混乱をもたらせた台風7号。

山火事によって、米ハワイ州オアフ島のラハイナの美しい街が廃墟と化してしまった様子は、あまりにもショッキングな光景です。山火事の原因の一つには、干ばつやハリケーン、つまり異常気象によるものと言われてます。

国連は「地球温暖化の時代は終わり、地球が沸騰する時代が到来した」と警告。1997年COP3で温室効果ガス削減目標(京都議定書)が決められましたが、先進諸国の都合(エゴ)で殆ど無策状態の付が回ってきたのでしょう。来年はエルニーニョ現象の影響で今年以上の暑さになると予測です。一日も早く対策を講じないと、異常気象による環境破壊、生態系破壊、食料危機などは加速度的に進むのではないかと思います。いや、もう手遅れなのかもしれません。そう考えると今の子供たちの未来が心配でなりません。

初段以上

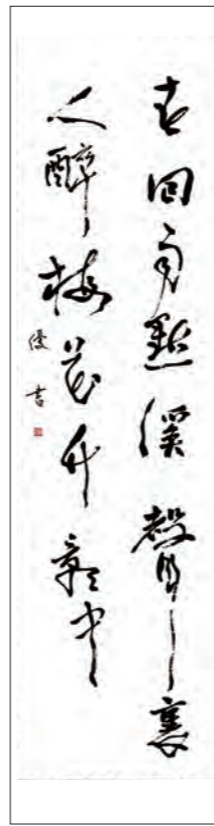
人間の本能に差はない。それなのに結果に差が出るのは何か。気持ちよく働くか、いやいや働くかで、結果はまるで違う。要するに人間の精神の問題だ。

10級～1級



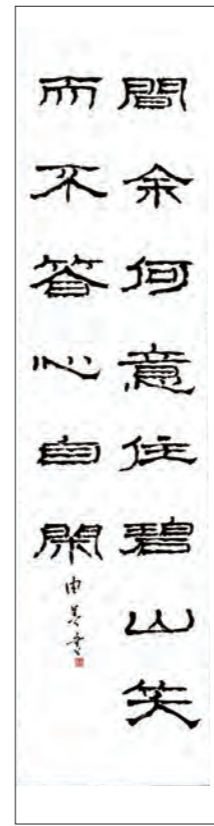
COVER ART  
Miki Araki

全体的に線が力身なく流れていて可。濃淡も善意的に上手く表現できている。穂先を丁寧にコントロール出来ているので、各所線に美しさがにじみでいる。



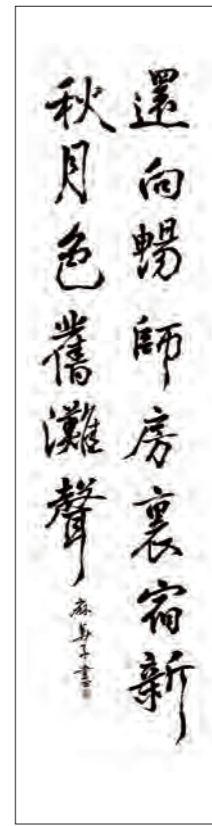
友岡 優

隸書の筆使いに徐々に慣れてきた感がある。隸書特有の筆触の筆使いもリズムよく表現できている。「何」「答」はやや重い線に、「意」「心」は逆に細く軽い線になった。



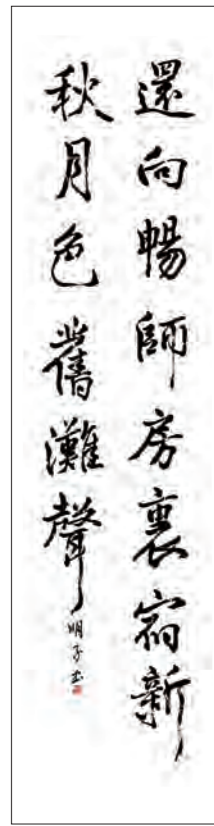
光山 由美

条幅に次第に慣れてきた感がある。「月」の転折からの縦線や「聲」の最終縦画などにやや硬さがあるが、流れを意識して丁寧に書けている。



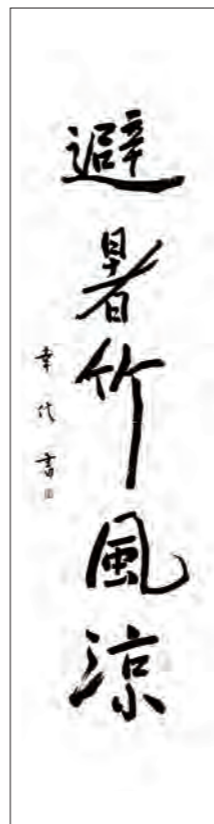
井島 麻美子

「還」「房」「色」の濃淡は上手く表現できていて可。「新」「聲」の縦長い線の抑揚も上手く表現できている。



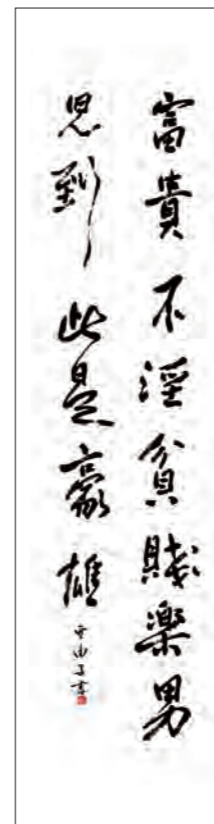
小田 明子

もう少し線に力強さが欲しい。起筆にもつと筆圧を加えて太い線が表現できるよう工夫が欲しい。「暑」の左払い、「涼」の「ミ」は上手かった。



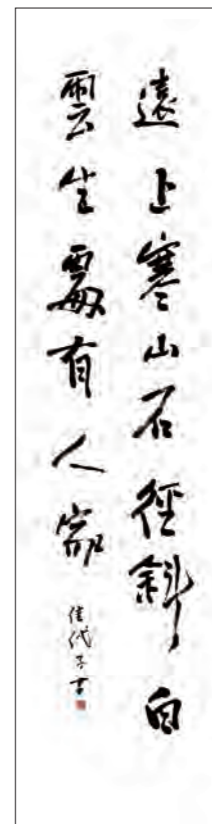
山田 幸代

全体的ににじみ具合が気になるので墨の濃さに注意。「富」「貴」と「見」「到」の濃淡の対比は良いが、「不」「淫」はやや重さを感じる。「比」「是」の連綿はやや硬さが見られる。



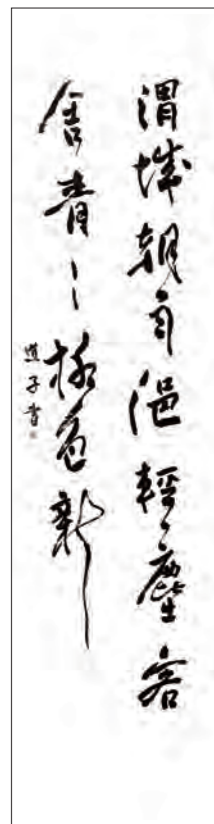
石川 あゆ子

「遠」「上」と「雲」「生」の濃さの対比は可。「寒」「山」にはやや重さを感じる。各線の終筆はおしなべて丁寧で粘り強さも出ている。



田 佳代子

紙と墨の調和不足で全体的ににじみが多くボタボタ感がある。起筆、終筆は丁寧に。連綿の筆使いも改善されつつある。



片山 道子